リハビリテーション総合実施計画書

計画評価実施日 年 月 日

虫⇒	新氏名		⊞ .	<u></u>	4	年 日日	(BB . +-	. 1177 .	亚. A	(1) 年	:	П		п (111七二	+.+()	(本工) <i>十</i>			
-			男・	_		平月 日	(明•大•	• 昭•	平•行			月		日(1	利き手	石•石(矯正)•左			
主治			A 1)/	P'			OT		1	ST	<u> </u>	- 1		看護		SW等					
原因	疾患(発症・受傷日)						-ル状態						度 🗆]中等	度 口重度	E リハビリテ	ーション歴	Ē =			
			(局Ⅱ	1)土,	心类	矣患,糖,	尿病等)			立性低』	皿,)土:	•									
										脈血栓											
日常	· 生活自立度: J1, J2, A1, A2,	В1,	В2,	C1,	C2	認失	巾症高齢	者の)日常	生活自	立力	度判	定	基準	: I , Ⅱ a,	Ⅱb, Ⅲa, Ⅰ	IIb, IV, M				
							ュン(:)の	り後し	と見ん	比的内包	マシ	記入	.)								
	□意識障害:(3-3-9:		ні іш		- 1	170. (- (.) •	ノ 久 (· .	<u> </u>	表在賞		□その他	.)			
心身機能	□認知症:									1 7 H 9 L 1º	+ 🗀	(עטעו	<u> </u>	140,			• /			
	□知的障害:]音声•	発言	活障	害(□構	音障害,	□失語症)	(種類:)			
	□精神障害:]失行•	失詞	忍:									
	□中枢性麻痺									□摂食機能障害:											
]排泄機能障害:											
•											呼吸·循環機能障害:										
構造	□ 不防竞赛制, 按理策制除字,										拘縮: 褥瘡:										
	基 立位保持(装具:) □手放し,□つかまり,□不可									□疼痛:											
	本 平行棒内歩行(装具:) □独立 ,□一部介助,□全介助																				
	動訓練室内歩行(装具:	,) [独立	<u>r</u> , [□一部介	助,口全	介助													
	1 日常生活(病棟)実行状況:「してい。										<u> </u> "活動"										
	自立度	自			.		1/\/\/L\!\\	<u> </u>	.(A) {I	1判]	狆	監		可 全 非		W. (50	1口判 」				
	日立茂						目 次	· 去九	実行場	1. TIC	1324		部			3 次数。	実行場所				
	ADL·ASL等]]	171	実	使用用: 杖•装!	共 安 見 介)) 助内和		等等			介	介 実	使用用!	安务					
	UDE VOL4	立	- 視 郥	· 」 別助	施		к л.	ウルコイ		₹	立		´ ·	助施		₹ /1 <i>9</i> /1/1	付 寸				
	屋外歩行					杖•装具:						-			杖•装具:						
	階段昇降					杖•装具:									杖•装具:						
	廊下歩行					杖•装具:									杖•装具:						
	病棟トイレへの歩行病棟トイレへの車椅子駆動(星)					杖•装具:									杖•装具:						
7	車椅子・ベット間移乗					装具: 装具:									装具: 装具:						
活	椅子座位保持					装具:									装具:						
動	ヘット起き上がり				<u> </u>						<u> </u>										
	食事					用具:									用具:						
	排尿(昼)					便器:									便器:						
	排尿(夜) 整容				· 	便器: 移動方法	. 次執.								便器: 移動方法	. 次執.					
	更衣					梦勤刀伝 姿勢:	*安分:								多勢:	*安労.					
	装具・靴の着脱					姿勢:									姿勢:						
	入浴					浴槽:									浴槽:						
	コミュニケーション																				
	活動度 日中臥床:口無,口有	育(時	計間帯		_						理	[由)			
	日中座位:□椅子(礼	fもた	これな	:し),	□ᡮ	奇子(背)	もたれあり	9),[□椅子	・(背もた	:ħ,	肘う	けあ	59),	□車椅子	,ロベッド上	., □ギヤッヂ	アッフ゜			
	身長 ^{#1} : ()cm, 体重	í.	() k	g. RMI	^{#1} : () ka	/ m² #1	身長	測定	が困	難かぜ	合け省略っ	T					
	栄養補給方法(複数選択可):[] 経	口([〕食	事	□ 補助	食品),	□ ¾	経管([,…	胃管	<u> </u>] 胃	瘻 [] その他)	, □ 静脈(□末梢□	口中心)			
栄	嚥下調整食の必要性: (□ 無 □ 有:(学会分類コード)) 栄養状態の評価:① GLIM基準による評価(成人のみ):判定 □ 低栄養非該当 □ 低栄養(□ 中等度低栄養、□ 重度低栄養)																				
栄養※	該当項目 表現型(□ 体重減少、□ 低BMI、□ 筋肉量減少) 病因(□ 食事摂取量減少/消化吸収能低下、□ 疾病負荷/炎症)																				
1	② GLIM基準以外の評価:□ 問題なし □ 過栄養 □ その他 () () () () (上記①「低栄養非該当」かつ②「問題なし」以外に該当した場合に記載】																				
	必要栄養量: ()kcal	た	こんに	ぱく質	量	() g														
	総摂取栄養量 ^{#2} (経口・経管・静脈全て含む): ()kcal, たんぱく質量 ()g #2 入院直後等で不明の場合は総提供栄養量でも可											量でも可									
П	※ 義歯の使用(□あり、□	なし	.)				歯肉の	腫れ	、出血	.(口あり	, _□	なし	.)								
腔	2 歯の汚れ(□あり、□プ)															その他()			
参加	職業 (□無職,□病欠中,□休職中,□発症後退職,□退職予定) 社会参加(内容・頻度等)																				
	(職種・業種・仕事内容:)												
	経済状況(余暇活動(内容・頻度等)											
心理	障害の受容(□ショック期 ,	□否	認其	 月, []怒	り・恨み:	 期,			依存征	次求	₹(□	強い	, <u> </u>]中程度,	□普通, □]弱い)				
	□悲観・抑うつ期、□解決への努力期、□受容期)															□普通,□					
	機能障害改善への固執(□強い,□中程度,□普通,□弱い)																				
,treet	同居家族:									家屋		:									
環境			家屋周囲:																		
	親族関係:										交通手段:										
第	発病による家族の変化									•											
不三利者	□社会生活:																				
利有の	□健康上の問題の発生: □心理的問題の発生:																				
1																					

^{※1} 回復期リハビリテーション病棟入院料1を算定する場合は必ず記入のこと(本計画書上段に管理栄養士の氏名も記入)

^{※2} 回復期リハビリテーション病棟入院料1・2を算定する場合は必ず記入のこと

基本方	金	本人	の希望				
11 2- 1		家族	の希望				
リスク・	疾病管理(含:過用・誤用)						
リハビリ	プテーション終了の目安・時期	外泊	訓練の計画				
			T				
	目標(到達時期)		具体的アプローチ				
	退院先 □自宅 □親族宅 □医療機関 □その他: 復職 □現職復帰 □転職 □不可 □その他: (仕事内容:)					
加標	通勤方法の変更 □無 □有: 家庭内役割: 社会活動:						
	趣味:						
	自宅内歩行 □不可 □自立 □介助: (装具·杖等:)					
	屋外歩行 □不可 □自立 □介助: (装具·杖等: 交通機関利用 □不可 □自立 □介助:)					
/	(種類: 車椅子 □不要 □電動 □手動 (使用場所:)					
活動で実行	(駆動 □自立 □介助)(移乗 □自立 □介助: 排泄 □自立:形態 □洋式 □和式 □立ち便器 □その他)					
状	□介助: 食事 □箸自立 □フォーク等自立 □介助: 整容 □自立 □介助:						
)	更衣 □自立 □介助: 入浴 □自宅浴槽自立 □介助:						
	家事 □全部実施 □非実施 □一部実施: 書字 □自立 □利き手交換後自立 □その他:						
心	コミュニケーション □問題なし □問題あり: 基本動作(訓練室歩行等)						
身構	要素的機能(拘縮・麻痺等)						
	機能障害改善への固執からの脱却:						
環	自宅改造 □不要 □要: 福祉機器 □不要 □要:						
境	社会保障サービス □不要 □身障手帳 □障害年金 □その他: 介護保険サービス □不要 □要:						
三不	退院後の主介護者 □不要 □要: 家族構成の変化 □不要 □要:						
有利の	家族内役割の変化 □不要 □要: 家族の社会活動変化 □不要 □要:						
退院後又は終了後のリハビリテーション計画(種類・頻度・期間) 備考							
本人・家	ア族への説明 年 月 日本人サイン	家	族サイン説明者サイン				

(リハビリテーション実施計画書及びリハビリテーション総合実施計画書記入上の注意)

^{1.} 日常生活自立度の欄については、「「障害老人の日常生活自立度(寝たきり度)判定基準」の活用について」(平成3年11月18日 老健第102-2号)厚生省大臣官屋老人保健福祉部長通知によるラングは 12 A1 A2 R1 R2 C1 又はC2に該当するものであること

大臣官房老人保健福祉部長通知によるランクJ1,J2,A1,A2,B1,B2,C1又はC2に該当するものであること。
2. 認知症高齢者の日常生活自立度判定基準の欄については、「「認知症高齢者の日常生活自立度判定基準」の活用について」(平成5年10月26日 老健第135号)厚生省老人保健福祉局長通知によるランク I, II a, II b, III a, III b, IV 又はMに該当するものであること。

^{3.} 日常生活(病棟)実行状況:「している"活動"」の欄については、自宅又は病棟等における実生活で実行している状況についてであること。

^{4.} 訓練時能力:「できる"活動"」の欄については、機能訓練室又は病棟等における訓練・評価時に行うことができる能力についてであること。